



山火事の発生には季節的な特徴があります。

山火事の多くは、3月から5月にかけて集中しています。これは、空気の乾燥した状況が続き、強い風が吹くなどの気象条件が重なることや、春先は、行楽や山菜取りなどで山に入る人が増加するほか、農作業を行うための、野焼きや枯れ草焼きなどから山林に飛び火することも原因となっています。

山火事の原因の多くが、人のちょっとした気の緩みや、火の取扱いの不注意で発生しています。一人ひとりが森林の大切を認識し、貴重な財産を山火事から守りましょう！



- 1 強風時や乾燥時には、たき火、野焼き、火入をしないこと
- 2 枯草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火や野焼きをしないこと
- 3 たき火等の火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
- 4 たき火、野焼き、火入れをするときは、消防署に届け出ること
- 5 火入れを行う際は、市町村長の許可を必ず得ること
- 6 たばこは指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消し、投げ捨ては絶対にしないこと